

1. 研修プログラムの概要と特徴

画像診断・治療科では、単純X線写真、CT、MRI、超音波検査、各種消化管造影検査、核医学検査、内視鏡検査など病院全体の診断、インターベンショナル・ラジオロジー（IVR: interventional radiology）治療ならびに IVR 患者の病棟業務を担当しています。画像診断では全ての領域を担当していますので、特定の専門分野に偏ることなくオールラウンドな画像診断を勉強できます。研修期間は、希望により1ヶ月から8ヶ月まで研修を行います。

受け入れ可能人数は、各月3名までとし、希望者多数の場合は総合臨床研修センターで調整を行います。

2. 研修の目標

- a. 各種画像診断法および臓器の画像解剖を理解し、検査法の指示・前処置・造影剤投与・画像読影・診断報告書作成の実際を学びます。
- b. IVR の基本手技を実習します。

3. 研修プログラム

- 1) 単純X線写真の読影を主に胸部写真について行います。
- 2) CT、MRI での造影剤投与の適応と造影剤の使用上の注意点を理解します。
- 3) 基本的症例のCT、MRI の読影を指導医と共に行います。日常臨床と初期研修のための講義(主にQ & A形式)を複合させて、より臨床に直結した画像診断の研修を行います。
- 4) 核医学/PET の基礎・検査法を学び、基本的症例を読影します。
- 5) 消化管造影検査や内視鏡検査の適応と手技を学びます。
- 6) 基本的症例(主に腹部スクリーニング)の超音波検査を修得し、読影を行います。
- 7) 血管造影やCT下肺生検・RFAなどのIVR助手を務め、手技を学びます。

研修期間1ヶ月の場合は、CT、MRI の読影を基本とし、研修希望を考慮して核医学/PET、消化管及び超音波、血管造影-IVR の研修を行います(研修希望によりますが、1ヶ月目はなるべく広く放射線診療の研修を行うことを勧めています)。また指導医とともに入院患者を担当します。専門医の指導のもと、週一回行われるカンファレンスで症例提示を行います。

2ヶ月以上の場合は、2ヶ月目以降は希望の各部門をより長い期間研修します。

4. カンファレンス・抄読会

毎週火曜日には抄読会と放射線科関連病院の医師も参加するリサーチカンファレンス・症例検討会が開催されています。

また、不定期で、学生及び研修医対象の症例検討会が行われています。院内では、下記のような他科との合同カンファレンスが開催されています。

- 神経放射線カンファレンス (週1回)
- 循環器症例カンファレンス (月2回)
- 消化器病理放射線カンファレンス (月1回)
- 呼吸器病理放射線カンファレンス (月1回)
- 婦人科放射線カンファレンス (月1回)
- 消化管3科合同カンファレンス (週1回)
- 泌尿器科放射線カンファレンス (週1回)

5. 研修実施責任者

画像診断・治療科長：池田 理

6. 研修指導責任者

中枢神経診断：上谷 浩之

胸腹部、泌尿生殖器診断：中浦 猛、尾田 済太郎

核医学：白石 慎哉

血管系 IVR：池田 理

非血管系 IVR 河中 功一

消化管・US：伊牟田 真功

7. 連絡先

放射線診断科 医局長：伊牟田 真功

電話 096-373-5261 (院内 PHS: 79487)

Eメール hamyt@qd5.so-net.ne.jp